

令和4年度版

「きぬむすめ」通信 第1号

良食味栽培のポイント ～初期の栽培管理について～

令和4年4月
JA晴れの国岡山
つやまきぬむすめ生産振興協議会
美作広域農業普及指導センター

目指せ7年連続特A獲得！708090作戦！！

岡山県産「きぬむすめ」が米の食味ランキング6年連続の特Aを獲得しました！
引き続き、特A獲得や「きぬむすめ」のブランド力強化のため、高品質・良食味米の生産にご協力ください。

下記の良食味栽培のポイントを栽培の参考にしてください。

708090作戦の目標

タンパク質含有率
7.0%以下

食味値
80点以上

一等米比率
90%以上



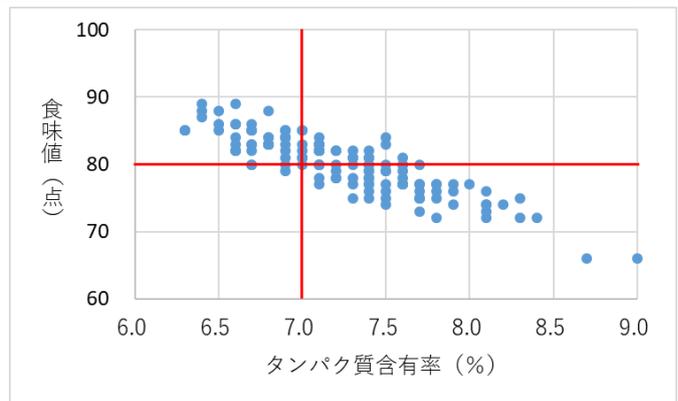
良食味栽培のポイント

1 適切に施肥を行いましょ！

出穂期以降に窒素が効く（葉色が濃くなる）と玄米のタンパク質含有率が増えて食味が低下します。

多肥を避け、暦の施肥基準を守って栽培しましょう。

- 玄米タンパク質含有率が低いほど食味値が高くなる
タンパク7%以下で、食味値80点を超えるものが多い
- 玄米タンパク質含有率を下げるには、出穂期以降に窒素を効かさない（葉色を濃くしない）こと



図：令和3年産「きぬむすめ」の食味値と玄米タンパク質含有率の関係

一発肥料を使用した施肥モデル（JA栽培暦を参考）

肥料名	施肥量 (kg/10a)	成分 (kg/10a)		
		N	P	K
きぬむすめ用一発肥料	35	8.75	3.5	3.5
けい酸加里プレミア	30	—	—	6.0
苦土重焼燐	20	—	7.0	—
合計		8.75	10.5	9.5

耕起前にほ場に
散布してすき込み

2 遅植えにならないように注意！

移植適期：5月中旬～6月上旬

特に、津山地域北部で6月中旬以降の移植は、低温年に成熟が遅延し減収や品質低下のリスクがあるので注意！！

気温平年値から推定した津山市における「きぬむすめ」の出穂期

移植期	5/15	5/25	6/5	6/15	6/25
出穂期	8/13	8/16	8/20	8/24	8/28

5/15：移植適期

「きぬむすめ」の収穫適期の目安

出穂後積算気温	出穂後日数
950～1100℃	40～45日

出穂が遅れるほど成熟期の気温が低くなるので、成熟が遅延しやすくなります。

3 やや密植で植えましょう！

栽植密度：50～60株/坪

株間：18～22cm

株間30cmなどの極端な疎植は、後半まで葉色が濃い生育となり、食味が低下する傾向があります



4 上手に除草剤を使いましょう！

除草剤を効果的に使うには、適切な水管理が重要です。除草剤の効果をも安定させるために、移植後の初中期一発除草剤は、処理後3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流しを控えましょう

↓ 除草剤処理



田面が露出しないように、ほ場はできるだけ均平にしましょう。
水持ちの悪いほ場は粒剤の使用が効果的です。

粒剤例) カチボシ、ベッカク、イネキング等

